

(2025 年 6 月 27 日発行)

日本口腔顔面痛学会理事長 小見山 道

広報委員会担当理事 山崎英子/委員長 池田浩子

今回は、2025 年 3 月 9 日に行われた神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウムについて清武おとなこども歯科の山本慧子先生に報告していただきます。

神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウム参加報告

清武おとなこども歯科 山本慧子

2025 年 3 月 9 日（日）に神経障害性疼痛関連歯科学会合同シンポジウムが『歯科における遷延する痛みと三叉神経ニューロパチー』というテーマで開催された。このシンポジウムは日本口腔顔面痛学会、日本口腔外科学会、日本歯科心身医学会、日本歯科麻酔学会、日本歯科薬物療法学会の 5 学会共催で各学会からのエキスパートの講師が登壇され、さまざまな方面から神経障害性疼痛を学ぶことができる。パンデミックを経て 2022 年からはオンラインでの開催となっており、後日オンデマンド配信も行われるため当日参加できない場合でも視聴することができる。私も当日は子供の行事で参加できなかったため、オンデマンドを視聴した。ディスカッションは拝聴できなかったが、繰り返し視聴することもできたのでありがたかった。

開催に先立ち、本学会理事長の小見山 道先生（日本大学松戸歯学部）から開会のご挨拶があり本シンポジウムが始まった。

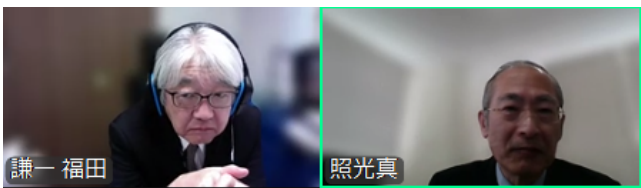


小見山 道先生

【第 1 部（10:00～）三叉神経ニューロパチーの回避のための検討】

座長：福田謙一先生（東京歯科大学 口腔健康科学講座障害者歯科・口腔顔面痛研究室）

① CT による神経損傷リスク評価の最新レビューと下顎皮質骨に潜む危険



福田謙一先生と照光 真先生

講師：照光 真先生（北海道医療大学歯学部歯科麻酔学分野，東京歯科大学スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科）

昨年行われた同シンポジウムでの MRI を用いた舌神経の走行に焦点を当てられたお話から引き続き、今回は CT を中心にお話しされた。下顎智歯抜歯における下歯槽神経損傷のリスクは、歯根と接触した下顎管の長径と舌側皮質骨の厚さと有意に関連があることや、神経などの軟組織と骨などの硬組織を同時に描出できる方法（MRI の CT 画像に近い神経 MRI の重ね合わせ）も紹介されるなど、目新しいことも多く今後の神経損傷のリスクを回避するための手段として期待が膨らんだ。

② 三叉神経ニューロパチーを回避するために～口腔外科医が考えていること～



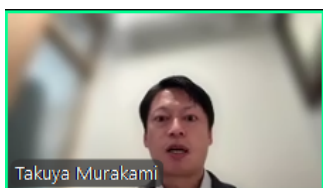
中松 耕治

中松耕治先生

講師：中松耕治先生（飯塚病院 歯科口腔外科）

中松先生は口腔外科医としてのお立場から神経障害についてお話しされた。下歯槽神経の損傷の要因として抜歯やインプラントの他に、根管治療時の貼葉でもリスクがあることは、一般歯科診療を日常的に行なっている身として肝に銘じたい。また、先生が紹介された抜歯時に使用されている角度付きの5倍速コントラは安全に抜歯操作を行うことができる手段の一つとしてぜひ使用してみたいと思った。二回法やコロネクトミーを行う際の注意点や舌神経、オトガイ神経の損傷についても解説され、改めて外科における解剖学の重要性を痛感した。

③ 感染，炎症，神経障害性疼痛のコントロールを要する歯内・ペイン混在病変への対応



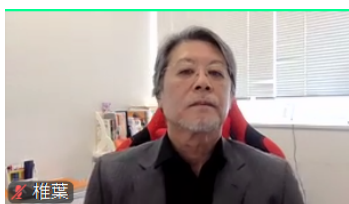
Takuya Murakami

村上拓也先生

講師：村上拓也先生（村上歯科クリニック）

村上先生は歯内療法専門であり、日常的にOFP専門の先生と連携しながら臨床を行われている開業医の立場から解説された。歯内療法後の術後痛の診断において、村上先生の歯科医院では、診察フローチャートを用いて院内のOFPの専門医と密に連携するシステムが構築されている。このシステムを用いると、より正確な診断が可能になるので、当院でもぜひ参考にさせていただきたい。また、神経障害性疼痛を引き起こす可能性のあるものとして、根管洗浄に広く使われる次亜塩素酸ナトリウムの組織為害性についても解説され、明日からの診療では濃度に十分注意しながら行いたい。

【第2部（12:40～14:30）三叉神経ニューロパチーの治療の検討】



椎葉

椎原俊司先生

座長：椎葉俊司先生（九州歯科大学 歯科侵襲制御学分野）

① 「三叉神経ニューロパチーに対する非薬物療法：星状神経節ブロック」



神奈川歯科大学 黒田英孝

黒田英孝先生

講師：黒田英孝先生（神奈川歯科大学 麻酔科学講座歯科麻酔学分野）

第2部では、黒田先生が三叉神経ニューロパチーに対する非薬物療法としての星状神経節ブロック（Stellate ganglion block：SGB）についてお話しされた。SGBは現時点では論文の数が多いことなども影響して、慢性疼痛等のガイドラインでは推奨レベルはまだ高くはないが、三叉神経ニューロパチーの治療法の一

つとして用いるには有効と考えられている。SGB は開始時期が早い方が効果的であると言われているが、時間を経た症例でもある一定の効果は見られるとの報告もあり、三叉神経ニューロパチーの治療の幅がさらに広がっていくと感じた。

② 「舌神経損傷，下歯槽神経損傷に対する外科的アプローチ」



有水高晴先生

講師：有水高晴先生（東京歯科大学 顎顔面外科学講座）

有水先生からは、口腔外科医としての立場から神経再生など外科的治療についてのお話があった。口腔顔面領域の神経障害は主に抜歯などによるものであるが、最近では美容外科関連のものも増えているということについては驚いた。外科療法は、術後の疼痛の出現などリスクも多いが、神経の損傷距離が 10mm 以下のものや外傷性神経腫を伴う場合などに有効とのこと。私も研修医時代に外科手術による舌神経損傷の疑いがある症例に遭遇した経験があるので、保存療法で十分な効果が得られなければ早急に外科療法も行える専門機関へ紹介することが大切だと痛感した。

③ 「三叉神経ニューロパチーの薬物療法」



村岡 渡先生

講師：村岡 渡先生（川崎市立井田病院 歯科口腔外科）

村岡先生は、三叉神経ニューロパチーの中の有痛性三叉神経ニューロパチー（神経障害性疼痛）への薬物療法について話しされた。医療面接における感覚異常の表現について患者と正確な表現に相違があるということもおっしゃった。今後はそのことを念頭に置いて問診を行いたい。また、治療薬を選択する際の注意事項について、NICE（National Institute for Health and Care Excellence：英国国立医療技術評価機構）神経障害性疼痛のガイドライン 2020 に記載されている Key Principles of care の重要性について言及された。神経障害性疼痛の治療薬は副作用も重大なものもあり、歯科医師、患者双方の理解が大切であるので、私も熟読した上で処方を行いたい。

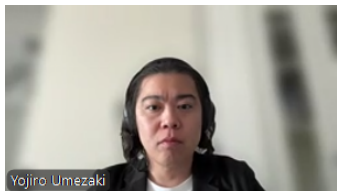
【第 3 部 三叉神経ニューロパチーの諸問題への対応】



坂本英治先生

座長：坂本英治先生（九州大学病院 口腔顔面痛外来顎顔面口腔外科）

① 「歯科心身症の疼痛とその対応法」



梅崎陽次朗先生

講師：梅崎陽二朗先生（福岡歯科大学 総合歯科学講座高齢者歯科学分野）

梅崎先生からは、歯科心身症の種類やその治療法などの解説、先生が患者の背景をより把握するために使用されている背景問診、MAPSO 問診などについての説明があった。口腔顔面痛患者は、一般歯科患者に比べ精神疾患などを持っていることも多いので、改めて患者背景や病歴の聴取など詳しい問診の重要性を感じた。

② 「医療紛争を防ぐ？招く？治療同意書の考え方」



小畑 真先生

講師：小畑 真先生（弁護士法人 小畑法律事務所）

小畑先生からは治療同意書の必要性、同意書に記載すべき項目について法的な立場からお話があった。治療同意書は、法的には説明義務に該当するものであるため、患者説明のポイントなどについて裁判事例を用いて解説された。不幸にも訴訟問題に発展してしまった場合に重要なのは証拠であるので、その役割を果たす意味でも治療同意書が大切であることもおっしゃられた。訴訟問題は誰の身にも起こりうることなので、質の良い医療の提供と併せて治療同意書を活用し予防に努めたい。

その後、委員長である福田謙一先生から閉会のご挨拶がありシンポジウムは締めくくられた。

今回のシンポジウムでは、神経障害性疼痛の理解に必要な解剖学など基礎的内容から神経損傷の原因～治療方法、神経損傷に伴って起こりうる訴訟事例など法的な部分まで幅広く学ぶことができた。私の医院では抜歯等の外科手術等を行うことも多いので、顎顔面の解剖や説明義務の重要性について改めて考えるきっかけとなった。神経障害性疼痛は、口腔顔面痛領域の中でもより一般歯科、口腔外科などとの関連が強い。したがって、このシンポジウムは口腔顔面痛診療を行っている歯科医師だけでなく、一般開業医含めた幅広い分野の歯科医師にとって有意義なものになると考える。オンラインやオンデマンドという受講方式はよりこの分野の裾野を広げることができるシステムであるとも考える。今後もこのシステムは続けていただけると切に願ひ、多くの方が受講し、神経障害性疼痛に精通した歯科医師が増えることを期待したい。

【山本慧子先生のプロフィール】

【略歴】

2011 年 九州歯科大学 卒業
2011 年 宮崎大学医学部附属病院歯科口腔外科臨床研修
2012 年 同大学入局
2013 年～ 開業医勤務
2022 年 清武おとなこども歯科開業



【自己紹介】

2 年前に夫と開業し一般臨床の傍ら口腔顔面痛診療を行なっている。昨年 3 人目を出産してからは目の回るような忙しさでなかなか口腔顔面痛の勉強ができていないが、この学会に在籍されている先生方のガッツに刺激を受けながら私も頑張らねばと気持ちを奮い立たせている。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp